



建築主

学校法人ノートルダム女学院

設計者

株式会社梓設計 関西支社

施工者

鹿島建設株式会社 関西支店

色彩やデザインコードの統一による記憶の継承

軒庇、低層部のアーチ形状、ベージュ系色彩のデザインコードにより小学校を含めたキャンパスの景観的統一を図っている。また、隣接建物とともに、旧ユージニア館の特徴であった縦ルーバーのデザインを継承した外装改修を実施している。



屋上緑化・既存樹木の保全・古材の活用

周囲の山々が見える屋上緑化により、憩いの場の創出と下階の熱負荷低減を図った。また、既存樹木の保全をこころがけるとともに旧建物に使用されていた大理石の床材などを再利用した計画となっている。



自然光の利用

建物全体的に自然光を有効に取入れ、明るく落ち着いた校舎としている。また、聖堂はトップライトや光壁、ステンドグラス(既存建物のからの移設・再利用)により柔らかな光の祈りの空間を実現した。



建築主

学校法人ノートルダム女学院

設計者

株式会社梓設計 関西支社

施工者

清水建設株式会社 関西支店

周辺環境と調和した教育環境づくり

1954年の開校以来、北山の地に親しまれてきたノートルダム学院小学校の風景を大切に、北山通りに面する既存樹木を残すなど、自然環境や既存利用を通して地域に根差す学校づくりを行っている。



小学校建設当初の建物デザインを踏襲

アーチ形状を活かした渡り廊下デザインなど旧校舎のデザインや素材感を踏襲することにより、北山の風景に溶け込み多くの卒業生を送り出している小学校の歴史の継承を実現している。



光と風を有効活用した穏やかな教育環境

学年間交流のスペース(コミュニケーションラウンジ)にスキップフロアを採用し、光と風を効果的に取り入れた学びの場を作るなど、自然採光、自然通風を積極的に取り入れた明るくのびやかな教育環境の提供を図っている。

